

令和4年度 第3回 南陽中学校運営協議会 会議録（要点記録）

1 開催日時 令和5年2月17日（金）

13時00分から13時25分 授業参観 13時35分から15時00分 学校運営協議会

2 開催場所 南陽中学校 会議室

3 出席委員 池野滋久・増田亜美・加藤裕之・村松真弓・鈴木和枝・増田哲也

4 欠席委員 なし

5 学校支援コーディネーター 水野真宏

6 学校 杉山哲也（校長）・高塚陽子（教頭）・藤田丈夫（教諭CS）・山口直子（CSディレクター）

7 教育委員会 山本美世絵（浜松市教育委員会 教育総務課）

8 傍聴者 なし

9 協議事項

- (1) 議長選出
- (2) 学校関係者評価説明と改善策について
- (3) 学校運営協議会の自己評価
- (4) 来年度の学校運営の基本方針について説明
- (5) 夢育やらまいかCS加算分の報告
- (6) 連絡事項

10 会議録作成者 CSディレクター 山口直子

11 会議記録

- ・委員の過半数出席により会議成立の旨を報告。配付資料の確認。（教頭）
- ・今年はコロナもインフルエンザも大流行する中で、スキー研修を始め各行事が無事に開催できて良かった。ブログでは宿泊学習が写真付き即日報告され、離れていても安心だし有り難かった。（増田亜美委員）
- ・前回の校則見直しで多くの意見を教員間で共有させて頂き感謝している。今回も子供達の学校の為に意見を伺いたい。（校長）
- ・教頭より増田哲也委員へ議長の依頼、全員拍手で承認。増田議長より議長拜命の言葉。
- ・第2回協議会の熟議内容テーマの振り返りと議事録確認の依頼。（教頭）

熟議

(1) 学校関係者評価

《学校の自己評価説明と改善策について》

- ・事前送付資料の学校評価アンケートを基に説明。1・2学期のアンケート結果と比較した着目ポイントは「A:安心して生活」「B:夢をもち、頑張れる」「C:授業の充実」「D:心を通わず生徒理解」の4点。Aはほぼ出来ていると判断。Bは全校的な評価低下で今後の課題として受け止め原因を解明中。希望を持ち中学入学・新学期を迎えた生徒達が2学期になり低評価を下す理由には「授業の在り方」が推測され、同じく低評価に転じたCと合わせ、「分かりやすい授業」を意識し見直していく。同項目は2年連続好評価だったので今回の変化は要注意。Dで25%の生徒が「教員と関係が築けていない」と感じている結果は大きな課題。保護者アンケートの「保護者に信頼される学校」低評価は、BCDに関する生徒の不安・不満が保護者に伝わった結果と理解。情報発信として学校便り・HP・ブログで学校の様子を随時公開し、多くの保護者が閲覧し好評を得ている。以上、BCD3点を今後の課題・改善点と捉える。（校長）

《次年度に向けての熟議》

- ・改善策と関連し、学校教育目標・スローガンと合わせ「生徒への支援の充実」に取り組む。生徒が授業や部活動で壁にぶつかった時の個々人への支援を工夫。学力の差に対応すべく、個別最適・授業改善・コース別学習等を検討中。個々の授業充実感/満足度の向上が重要。部活動では能力・レベルの個人差が大きく、集団・個人双方の目標の充足を目指しバランス良い指導に取り組む。Dに関して「ワンリング南陽」の更なる充実を目指し、「生徒の気持ちに寄り添う」姿勢で忠実に、「生徒はこのようにあるべき」から「1人の個として認める」子供基本法の姿勢に意識的に変換。別の視点から他にどんな課題/改善策があるか委員の忌憚ない意見をお願いしたい。（校長）
- ・「夢をもち、頑張れる」の低評価は着目ポイントと感じる。校長の話全体を通じて皆の意見はどうか？（増田哲也委員）
- ・生徒アンケートの「いじめ・暴力・授業妨害なし」は高評価だが、保護者アンケートでは「いじめのない学級集団づくり」が低評価という点が気になった。「いじめの存在」認識が生徒・保護者間で16%の差異があり、「加害者意識」の薄い生徒が存在すると同時に「悩みを相談・気軽に話せる先生がいない」と感じている生徒も25%存在することから、家での会話から保護者が「いじめ」を捉えた、とアンケートの数字より推測。学校はその差異をどう考えているのか？（加藤委員）
- ・「加害者意識が薄い」と同時に「受け止め側」の感じ方に個人差が大きいことも要因と考える。同じ言動でも生徒によって「冗談」「いじめ」と捉え方が大きく異なる。不安な情報は保護者間で特に急速に伝わりやすい状況であると推測。トラブル情報入手・問題発生次第、生徒/保護者の安心に繋げるよう至急対応に努める。「加害者意識の薄さ」は新視点だったので、今後その理由や背景も探っていく。（校長）

- ・コロナ禍の制限が多かった過去3年間にはこのような問題は少なかったが、最近制限緩和で日常が戻る中で事例増加を感じている。5月にコロナが5類になり通常生活に戻ると、生徒達の活動量が増え抑圧された気持ちが解放される中で、要注意事例は増える懸念もあることを念頭に指導していく。(校長)
- ・「頑張っていこう！」という生徒達の前向きな気持ちが高評価に表れていると同時に、隠れた本音部分を感じ取った保護者の不安が低評価として差異に現れたのではないかと心配。学校はどう捉えているか？(鈴木委員)
- ・学級担任は事例の多くを日常生活の「流れの一部」と捉え経過観察しがちだが、誤解・対応遅延・問題見落しに繋がる可能性があるので、学級担任以外の教員の別視点で捉えるよう試みている。明確な成果はまだ見られないが、引き続きトラブル対策に努力する。(校長)
- ・連年同じ担任だと人間関係・理解が深まり良い結果を生むことも勿論あるとも思うが、「毎年担任変更」で新しい人間関係の長所を考慮するのも良いのではないか？(増田哲也委員)
- ・担任数と学級数の関係で6学級なら1/6の確率で同じ担任になる状況なので、「全員が次年度は別担任に」を完全に実施するのは難しいかもしれないが考えてみたい。(校長)

(2) 学校運営協議会の自己評価について

- ・多くの貴重な意見を頂いたが、ページ制限のため集約し全てを掲載できず心苦しい。内容を確認し第3回運営協議会の内容も加味した上での追加修正はあるか。(教頭)
- ・前回の校則に関する議論部分と、今回の評価アンケート分析議論も追加したい。(水野学校支援コーディネーター)

(3) 次年度学校運営協議会の基本方針について説明

- ・Aへの取り組み。Bのサポートと部活動での集団・個の双方満足を目指す。Cの生徒達の学習支援と環境整備に取り組み、「ワンリング南陽」を継続。保護者・生徒間の学校評価についての意思疎通を図るために、年4回の学校評価アンケートを事前告知し、期日前の親子話し合いの機会を設けた後での評価回答とすれば、本音や実態により近づけると思うがどうだろう。(校長)
- ・アンケート締切りまで期間が短く回答内容も吟味できずにいたが事前告知があると親子話し合いの場が持て助かる。(増田哲也委員)
- ・校則見直しについて、現3年生が問題提起し最終案を作成し、現2年生に引き継ぎ来年度開始時に全校生徒から意見を募り、2学期には生徒達自身で新校則の一步が踏み出せる予定。進捗は遅いが生徒自身の力で改革を進めさせてやりたい。その進め方で良いか？(校長)
- ・生徒の自主性を重んじ、それが具体化に結びついてとても良い。頑張っこのまま進めて頂きたい。(村松委員)

(4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

- ・第1回運営員会で活動予定として掲げた点について。「糸友会」の協力で大凧作成/凧揚げ大会参加と無事に実現。「芳川花の会」のカルチャー部・しおさい学級への園芸指導も実施。「鼓星」外部講師依頼は諸事情により実施出来なかったが、来年引き継ぎ承諾済。キャリア教育充実予算は前述活動・職業体験・講話経費で予算執行。来年度は職業体験・未来授業を両調整したい。(教頭)
- ・吹奏楽部の地域交流に加え第1回で希望の出た「ソフトボール部地域交流」が、学校支援コーディネーターの協力で地域クラブとの交流試合の形で3月に実現する。(校長)
- ・芳川地区各町ソフトボール部に声掛けをし選抜地域混合チームを作り交流試合が決まった。(水野学校支援コーディネーター)
- ・熟議の中で挙がった希望企画が学校支援コーディネーターの協力で実現するという好例。後に続けば嬉しい。(教頭)
- ・教員にソフトボール経験者が少ないので、地域の経験者に指導を仰ぐ機会にもなり本当に有り難い。(校長)

(5) その他

- ・卒業式を前に「マスク議論」先行とその対応が悩ましい。卒業式での校歌斉唱時・入退場時は「マスクを外す」としても、「気になる人は着用」と個人の選択も考えている。卒業証書授与の晴れやかな舞台上「マスクなし」の表情を親御さんに見せたい学校の想いもある。保護者としてはどうだろうか？(校長)
- ・思春期の子供達は「マスクに助けられている」状況もあるようだ。顔半分隠れることで「精神的な安定」を得られているともいえる。「マスク外し強制」は避け子供自身に選択させれば良いのではないか。(増田亜美委員)

(4) 連絡事項等

- ・次回開催は来年度5月25日午後。協議会前に部活動参観の予定。新年度の会長/副会長、第一回の議長選任も行い、続く第2回運営協議会の議長選出と熟議内容検討、写真撮影も行う。今年度の協議会を通じ、各々立場が異なる委員からの多様な意見が学校運営の助けや知恵となったと感じており本当に有り難い。来年度も活動の中で色々お願いすることもあると思うが、引き続きよろしく願いたい。(教頭)

午後15時00分 閉会